

コネクタ結線作業要領書

第2版

1. 適用範囲

本要領書は、R-754コネクタの結線作業方法について推奨する。

ただし、アッセンブリメーカーで確立した方法があればこの限りでは無い。

2. 必要工具

- ・ 六角レンチ (サイズ6 [mm])、マイナスドライバー、ニッパ、スケール
- ・ 電工ナイフ又はシース剥き

NANABOSHI PDF DATA

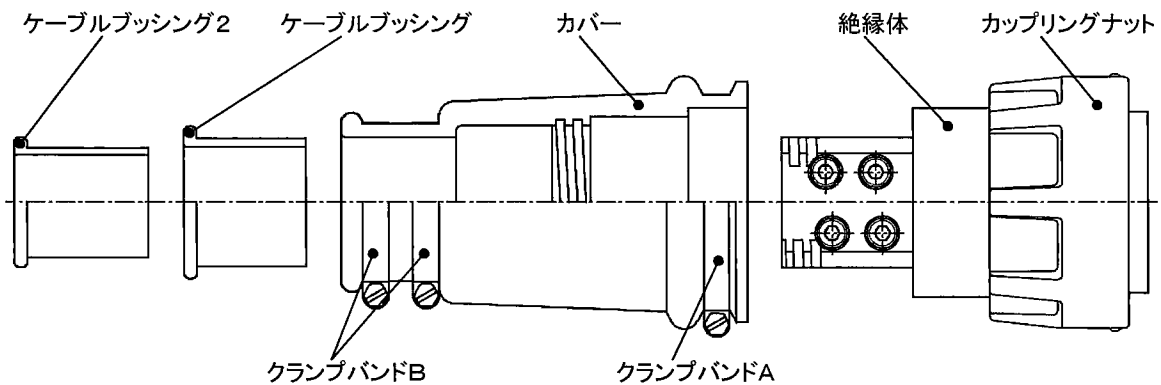
御 参 考 用

3. コネクタの分解

3.1 プラグの分解

(1) クランプバンドAを緩め、カバーを回転 (左に回す) させ、絶縁体より外す。

(2) クランプバンドBを緩め、ケーブルブッシング、ケーブルブッシング2をカバーより外す。



3.2 レセプタクル

レセプタクルは分解せず、そのまま結線する。

変更記事	記号	日付	内容	承認	査閲	作成	承認	調査	起草
	△	'18.2.1	クランプバンドB参考値の付加とAの下限値廃止	2018	佐藤	伊藤	2018	佐藤	鈴木
		'16.1.26	内容変更の為、書き替え	2016	佐藤	鈴木			
	記号	日付	内容	承認	査閲	作成	2016.1.28	'16.1.27	'16.1.26

4. 予備装着

分解した各部品を、下記の順にあらかじめケーブルに通す。

表1の適用ケーブル外径により、該当するケーブルブッシングを使用すること。

(注) 各部品の順番、向きを間違えないようにすること。

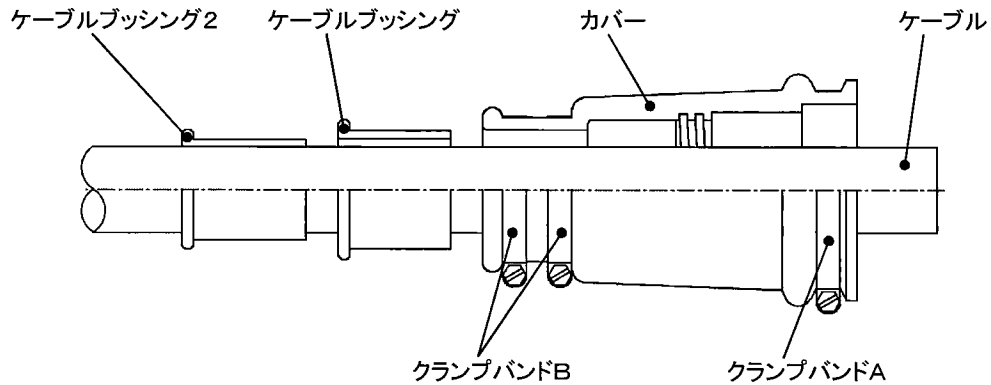


表1 ケーブル外径-ケーブルブッシング対応表

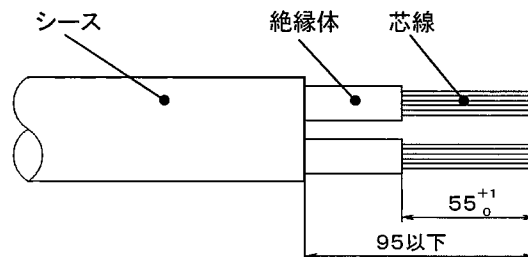
適用ケーブル外径 [mm]	使用ケーブルブッシング
$\phi 5.1 \sim \phi 6.0$	ブッシングなし
$\phi 4.3 \sim \phi 5.1$	ケーブルブッシング
$\phi 3.8 \sim \phi 4.3$	ケーブルブッシング + ケーブルブッシング2

5. ケーブル端末処理

ケーブル端末のシース及び絶縁体の剥き寸法は下図を目安とし、ナイフ等任意の方法で剥く。

レセプタクル等バラ線使用の場合は、芯線の剥き寸法を目安とする。

(注) 芯線や絶縁体に傷を付けないこと。



NANABOSHI PDF DATA

御 参 考 用

NANABOSHI PDF DATA

御 参 考 用

6. 結線作業

(1) 六角穴付止めねじを緩め、コンタクトにケーブルの芯線を奥まで差し込む。

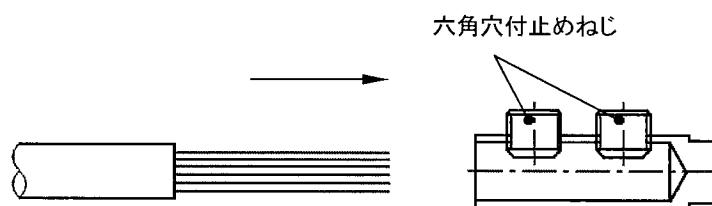
(注) コンタクトから芯線が1本も出ていないこと。

(2) 六角穴付止めねじ2つを、下記の締め付けトルクを目安として締め付ける。

(参考締め付けトルク 15~20 [N・m])

(注) 導体断面積の小さいケーブルは、芯線とねじが接する面より芯線が逃げないように芯線を縛るなどして止める。

(3) 接続後、絶縁体を持ちケーブルを前後左右に動かしながらなじませた後、再度締め付けを行う。



7. コネクタの組立

7. 1 プラグの組立

(1) 絶縁体を固定し、カバーを回転させ締め付ける（右回りに回す）。

(注) 絶縁体を回転して締め付けないこと。

(2) クランプバンドAを締め付け、絶縁体とカバーを固定する。

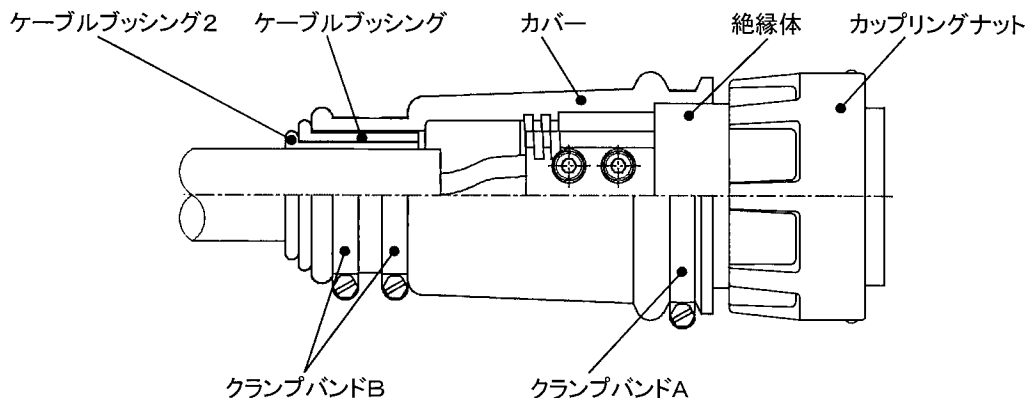
(3) ケーブルブッシングをセットして、クランプバンドBを締め付け、ケーブル及びケーブルブッシングを固定する。

(クランプバンドAの参考締め付けトルク 3.5~4.0 [N・m])

△ (クランプバンドBの参考締め付けトルク 4.0 [N・m])

△ 上記数値は、あくまで推奨値です。（ご使用の条件によっては、仕様の防水性能を確保できない場合があります）

(注) ケーブルを前後左右に動かし、なじませながら締め付けを行う。



7.2 レセプタクルの取付

下図を参考に取付パネルに穴あけを行い、結線したレセプタクルを取り付ける。

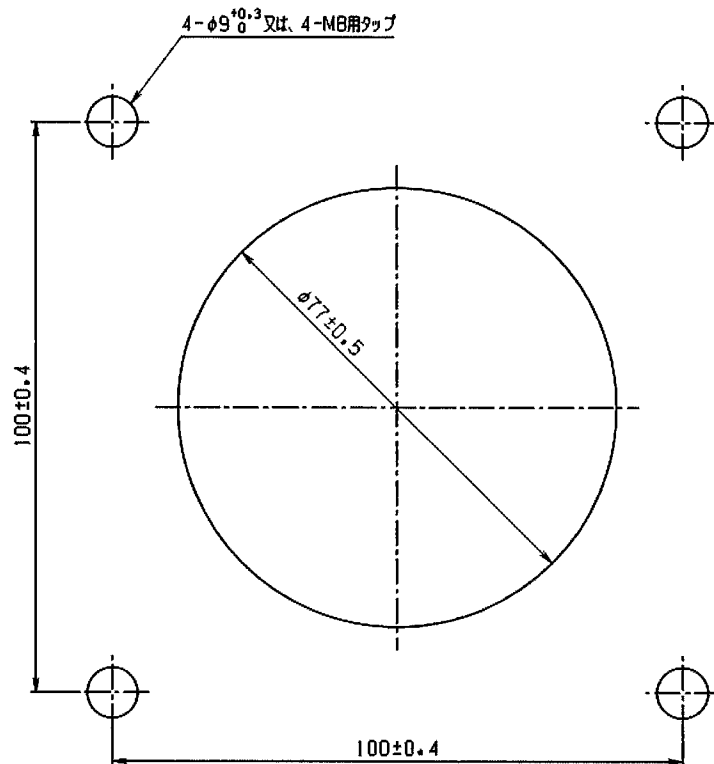
(注1) 4点ねじは均等に締め付ける。

(参考締め付けトルク 6.0 [N・m])

(注2) パネル厚が厚い場合は直接パネルにタップを切り、取付パネル表面から裏側へねじ穴が貫通しないようにすること。

(注3) パネル厚が薄い場合は市販のシールワッシャーを使用するか、取付ナット部分を樹脂等でモールドすること。

※ 基本的にパネル内部は防水性が確保されているものとする。



NANABOSHI PDF DATA

御 参 考 用